

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個に応じた「確かな学力」の定着と、「豊かな心」をはぐくみ、将来を「生き抜く力」を身に付けさせることによって、地域および保護者から信頼される学校をめざす。

1. 地域の実情を踏まえた特色ある教育活動を展開し、社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的な学習の確実な定着を図る。
2. 他人を思いやる心や自然や美への感性など「豊かな心」をはぐくみ、規範意識を身に付けた生徒を育てる。
3. 教職員が一丸となって『学校力』を高めあい、生徒に「生き抜く力」を身に付けさせる。

2 中期的目標

1 基礎的・基本的な学習の確実な定着に向けて

- (1) 個に応じた「確かな学力」の確実な定着を図る。
 - ア 生徒の学力に応じた教科科目の設定を行い、1年次生から卒業まで、計画的に基礎的・基本的な学習を身に付けさせる。
 - イ 生徒支援の視点から、生徒の学力、意欲、適性等を総合的に見極め、個に応じた「確かな学力」の定着を図る。
 - ウ 25年度生からの「3年卒業4年卒業選択制」を有効に機能させ、卒業率の向上を図る。
- (2) 生き生きとした活力ある授業をめざして
 - ア 教員としての全般的な力量を高める取り組みを学校全体で実施する。
 - イ ICTを活用した魅力ある授業づくり26年度から進め、28年度までに定着させる。
 - ウ 授業規律の向上に努める。

2 豊かな心と規範意識を身に付けた生徒を育てる

- (1) 規律・規範のある学校生活を通して、豊かな心をはぐくむ取り組みを推進する。
 - ア 生徒の自主性を育てる取り組みを実践するとともに、地域への奉仕活動ができる学校をめざす。
 - イ 生徒会が中心になり、あいさつ運動を展開し、全員があいさつできる学校をめざす。
 - ウ 24年度から実施の「規範意識を持たせるための教育プログラム」を26年度中に検証し、27年度からの新たなプログラムを策定する。
 - エ 生徒指導のユニバーサルデザイン化を進める。
- (2) キャリア教育、人権教育の推進
 - ア 入学時より生徒の就労を促進し、働くことへの意識を高め、卒業時の就労率100%（進学等を除く）をめざす。
 - イ 様々な課題を有する生徒に有効的な人権教育を研究し実践する。

3 生徒支援を軸にした学校づくり

- (1) 生活指導から生徒支援へ
 - ア 生徒支援カードを活用し、個々の生徒に応じた支援を組織的に実践する。
 - イ 生徒支援の観点からいじめや暴力行為等の防止を図り、中途退学や不登校の減少に取り組む。
- (2) 安全安心な学校づくり
 - ア 地震を想定した防災教育を実践する。
 - イ 26年度から始まる大規模工事の中で、生徒の安全安心に配慮した施設の点検や充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校全般について】</p> <p>・保護者向け「こどもは成城高校に入学して良かったと思う」の問いには95.7%、生徒向け回答でも「成城高校に入学して良かったと思う」は85.0%が肯定の評価であり、学校への信頼と期待が寄せられている。また、行事の工夫改善の努力の結果、生徒向け「学校行事は楽しく行われている」の問いには回答が75.4%から86.3%へと大きく向上している。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>・魅力ある授業づくりをめざす意識が教員に浸透し、教員向け「授業について工夫改善を行っている」の問いには95.7%の教員が肯定している。また、本年度は授業のICT化等に取り組み、生徒向け回答でも「先生は授業をよくがんばっている」は91.3%の評価と高くなっている。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・スクールカウンセラーの導入と、全校生徒を対象にした「ケース会議」を実施しているが、これらの結果が徐々に浸透し、生徒向け「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」の問いには回答が73.7%から86.3%へと大きく向上している。しかし、「悩みを相談できる先生がいる」の問いでは64.1%と厳しい数字となっていて、教員のスキルアップとともに生徒の心に届く支援が課題である。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・校内研修の機会や内容の充実を進めてきた成果が表れ、「教育活動について教職員で日常的に話し合っている」の問いには、昨年の89.5%より高い95.7%の教員が肯定と飛躍的に向上している。また、「HRなどを有効に活用した教育活動を行っている」の問いには82.6%の教員が肯定している。引き続き、本校独自の研修や諸会議の充実を図りたい。</p>	<p>第1回 (5/19)</p> <p>○授業について 各委員一人ずつ別の授業を見学 ・準備として授業前に、きれいな板書で問題が書かれていたのには感心した。また、ファイルでプリントを一人一人、個別に管理する工夫をしていた。しかし、遅刻者が少しうるさかったり、何度も教師が声かけしても携帯を見ている生徒がいるなど、授業に対して積極的ではない生徒もいるので、授業に対する動機づけも必要ではないか。</p> <p>第2回 (11/17)</p> <p>○給食試食について ・成城定時制の給食は温かくておいしかった。量的に少ないが、栄養カロリーが高いと思う。しかし、給食を食べている生徒が少ないので、給食を取る生徒を増やすため、メニューを減らしてすぐに食べられるものにした、短い時間帯でも食べられるようにするなどの工夫があればと思った。</p> <p>○文化祭について ・定時制の教員は積極的に生徒に携わってくれている。生徒たちががんばれるように、盛り上げ支えてくれているのは、本当にありがたいと思う。また人前で歌を唄ったり、ダンスを踊ったり、舞台上上がるのは勇気がある。その一歩を踏み出せるように導く先生方の指導に頭が下がる思いがした。</p> <p>第3回 (2/16)</p> <p>○提言・要望 ・前年度の提言を受けて、生徒通信を何回も発行したと報告があったが、大変良いことだと思う。次年度はこれにとどまらず、学年通信等も加えてHPに載せてはどうか。HPを活用した発信の機会を増やすことは、今の時代重要なことだと思う。 ・学校教育自己診断の保護者アンケートの提出率が低いのは残念である。定時制では困難なことかもしれないが、少しでも提出率をあげて、様々な保護者の声を聞いて欲しい。 ・親子関係がむずかしい時期でもある。先生は親とは違ったアプローチができるので、先生と関われる生徒の居場所づくりは必要だと思う。その際、できるだけいろいろな先生が生徒と関われるよう考えて欲しい。 ・会社を経営する立場からしても、基礎的な学力は最も重要である。基礎基本の学習の定着を図ってほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
基礎的・基本的な学習の確実な定着	(1) 個に応じた学力の定着 ア 基本科目の検証、改善 イ ゼロ時間目の充実	(1) ア 学力診断テストを実施し、前年度との比較検証から国語・数学学習指導を改善する。 イ 基礎教養と進学対策科目の二つのゼロ時間目授業をモジュール方式で実施する。	(1) ア 学力診断テスト報告会の実施。国語、数学の授業アンケート肯定率70%以上。 イ 講座の成立。授業アンケート肯定率80%以上。	(1) ア 5月30日学力診断テスト報告会実施。国語、数学の授業アンケート肯定率78.4%。(○) イ 基礎教養2講座、進学対策科目2講座を実施。授業アンケート肯定率87.7% (◎)
	(2) 活力ある授業づくり ア 教員力の向上 イ 授業のICT化	(2) ア 教員としてのトータルな力量向上のための自主研修やレポート作成を実施する。 イ すべての教科がICTを活用した授業を研究し実践する。	(2) ア 研修回数2回以上。レポート提出率80%以上 自己診断での授業満足度80%以上。 イ ICTを活用した授業を講座ごとに2回以上。	(2) ア 7月10日～11日(第1回)。相互授業観察。11月26日(第2回)。ICT活用モデル授業2講座。いずれもレポート提出率100%。若手研修会2回実施。授業満足度91.3%。(◎) イ ICT活用授業全員実施。平均実施数10.0回。(◎)
豊かな心と規範意識を身に付けた生徒の育成	(1) 学校生活の充実 ア 生徒会活動の充実と地域貢献 イ あいさつ運動 ウ 規範意識の醸成 エ 生徒指導法の工夫	(1) ア 体育祭、文化祭などの学校行事を生徒会を中心に実施する。また、地域清掃を実施する。 イ 生徒会を中心にあいさつ運動を、年間3回計3週間実施する。 ウ 「規範意識を持たせるための教育プログラム」改訂版作成。 エ 生徒指導のユニバーサルデザイン化を研究し実践する。また、生徒通信を発行する。	(1) ア 自己診断による生徒の満足度80%以上。地域清掃実施の有無。 イ 実施の有無。保護者の学校満足度80%以上。 ウ 改訂版の完成。 エ 教員の自己診断肯定率70%以上。生徒通信発行年間3回以上。	(2) ア 満足度86.3%。7月18日、12月24日登校者の38%が参加して地域清掃実施。(◎) イ 4月9月12月計3回週間あいさつ運動実施。保護者の満足度95.7%。(◎) ウ 「規範意識を持たせるための教育プログラム(改訂版)」12月完成。(○) エ 携帯使用や自転車マナー等UDL化した注意喚起を実践。教員の肯定率95.7%。生徒通信年間7回発行。(◎)
	(2) キャリア教育、人権教育 ア 生徒の就労を進める イ 有効な人権教育	(2) ア キャリア教育の一環として、またニート対策という意味も含め、アルバイトを含めた就労を促進する。 イ 本校生に有効な人権HRを実施する。	(2) ア 24年度48%25年度68.8%を70%以上に。 イ 生徒及び教職員の自己診断肯定率70%以上。	(2) ア 26年度就労率70.6%。(○) イ 人権HR肯定率、生徒83.8%、教職員82.6%。(◎) 人権学習ニュースも2回発行。
生徒支援を軸にした学校づくり	(1) 生徒支援 ア 個別の生徒支援の取り組みの充実 イ 懲戒や不登校の減少	(1) ア 2種類の生徒支援カードを柱に、年間3回、学校全体でのケース会議を開催する。 イ 登校できる生徒と不登校の生徒に分け、前者は担任による懇談等の徹底。後者は学校全体のチームでアプローチする。	(1) ア ケース会議の実施回数と教職員向け学校教育自己診断での肯定率80%以上。 イ 懲戒数最多22年度(15件29人)の1/3。3年次生卒業率を25年度の40%から60%以上に。	(1) ア 全校生対象ケース会議5月9月1月の3回実施。教職員の肯定率95.7%。(◎) イ 懲戒数(停学者)5件8人。3年次生卒業率55%。(○)
	(2) 安全安心な学校づくり ア 防災教育 イ 工事対応	(2) ア 地震対策を軸にした防災HRの実施。 イ 大規模工事の中で、特に生徒の動線の安全確保を図る。	(2) ア 生徒の自己診断での肯定率80%以上。 イ 具体の実践内容。	(2) ア 10月23日防災HR実施。生徒の肯定率91.3%。(◎) 担当者の個人制作ビデオ等力作。 イ 耐震工事対応の終夜灯設置。防災フラッシュライト購入。(○)